

2014 年 4 月 7 日

環境社会配慮助言委員会委員長 村山 武彦

担当ワーキンググループ主査 日比 保史

フィリピン国 天然ガスパイプライン建設事業

(協力準備調査(有償))

スコーピング案に対する助言

助言案検討の経緯

ワーキンググループ会合

- ・ 日時：2014 年 3 月 10 日(月) 14:00～17:47
- ・ 場所：JICA 本部 (会議室：1 階 111 会議室)
- ・ ワーキンググループ委員：清水谷委員、鋤柄委員、日比委員、松本委員
- ・ 議題：フィリピン国 天然ガスパイプライン建設事業 協力準備調査に係るスコーピング案についての助言案作成
- ・ 配付資料：フィリピン国 天然ガスパイプライン建設事業所建設事業 SC 案事前配布資料
フィリピン国 天然ガスパイプライン建設事業に係る事業スコープ(案)仕様詳細
- ・ 適用ガイドライン：国際協力機構環境社会配慮ガイドライン(2010 年 4 月)

全体会合(第 46 回委員会)

- ・ 日時：2014 年 4 月 7 日(月) 14:30～16:43
- ・ 場所：JICA 本部(会議室：1 階 113 会議室)

助言

全体事項

1. 調査全体スコープにおける本事業スコープ間の不可分一体性について DFR に記述すること。
また、本プロジェクトに関連して計画される事業が環境社会面で十分な配慮がなされるように、「フィ」国政府と協議をすること。
2. 事業の必要性の記述において、「フィ」国では地熱・水力のシェアが相対的に高く、温室効果ガス低減の面では評価できる。それに続けて天然ガスの利用の拡大を進めるべき、と述べることは、やや矛盾するので、DFR では「化石燃料の中で天然ガスの利用率を高める」という記述に改めること。
3. 化石燃料を扱う事業であり、温室効果ガス（GHG）排出量増の可能性があることから、「フィ」国の GHG 排出の現況および推計、排出削減方針・計画等を DFR に記述すること。
4. 適用されるパイプライン強度に関するセーフティーアセスメントレベルについては、詳細な仕様を DFR で記述すること。

代替案の検討

5. ガバナステーションの立地が最適であることを、供給先や環境社会影響をふまえて DFR に記述すること。
6. 「ゼロオプション」は、「天然ガス利用を進めない」ではなく、「このパイプラインを建設しない」という観点からの比較を行うこと。
7. マニラ首都圏にガスを供給する計画の中で、このルートを最適とする理由について DFR に記述すること。

スコーピング・マトリックス

8. 騒音と振動については、夜間工事を想定に入れて評価し DFR に記述すること。
9. 地球温暖化への影響に関しては DFR に一項目立て、正負の影響についてできる限り定量的に記述すること。
10. 地形・地質の項目の中に断層の確認と対応策の検討を含み、その結果を DFR に記述すること。
11. 2013年1月に中国広西チワン族自治区で道路の地下に埋設されていた天然ガスパイプラインが爆発する事故が発生した。2000年8月にはアメリカ・ニューメキシコ州でも地中のガスパイプラインが破裂・爆発して火災が発生している。「フィ」国は自然災害や地震の多い国ということもあるので、他国の教訓も踏まえた事故対策を検討し、結果を DFR に記述すること。
12. パイプライン供用時における事故に関しては、事故の予測規模の最大値を評価し、DFR に記述すること。

環境配慮

13. 想定されているパイプラインのルートと ECAs (重大な環境影響が想定される地域) を含む自然保護区及び KBA (重要生物多様性地域) との位置関係を明らかにし、DFR に記述すること。
14. パイプラインの敷設作業により、井戸水が濁る可能性がある個所については現地調査し、その結果と対策を DFR に記述すること。

社会配慮

15. パイプライン及びステーションが住宅等に近接して建設・運用されることへの規制及び補償について「フィ」国の現状を調査し、DFR に記述すること。
16. 簡易 RAP と RAP の違いを明記し、簡易 RAP で十分だと考える根拠を DFR に記述すること。

ステークホルダー協議・情報公開

17. 被影響住民に対して行われる協議においては、事故のリスク及び対策を十分に説明すること。
18. ステークホルダー協議におけるジェンダー・社会的弱者の参加・意見聴取の状況及び対応について DFR に記述すること。

以 上